

働き方を考える

～男女共生社会から未来を見据えて～

講師 上西 充子さん

法政大学キャリアデザイン学部教授
労働問題・社会政策専攻、



日付	3月21日(火) 14:00～16:00
会場	オンライン
参加人数	48人 参加費 無料
担当委員会	労働委員会

内容報告

私たちはどういう社会を実現させたいのか。男性も女性も個人として尊重し合い、ケアを分かち合いながら共に暮らす社会をめざすなら、男性も一緒に「今の状況を変えたい」と思えるような運動の方向性が大事ではないか。ともすれば女性が女性だけで連帯し、「おっさん政治」「男性支配」などを問題視し、男性から見れば自分たちが敵視されているように見えるという関係性では、共に変えていくことは難しい。女性の働き方の問題は、男女の働き方の問題として男性を巻き込んで取り組むべきである。

上西先生はこうした視点から、発言を続けられ、若い人をまきこんでの実践もされていることから講師に依頼したのだが、膨大な(50枚)パワポを駆使して、実践を含めた報告をいただいた。行き詰まっている女性労働問題に風穴があげられるのではないかと期待を込めての人選・依頼であっただけに、労働委員会以外の参加者も多く、好評だった。

国際婦人年連絡会は、女性からの問題提起と解決を目指してきた歴史があるので、上西先生の提起には抵抗がある人も少なからずいたが、行き詰まっている情勢では、「抵抗」「反対」などの言葉にすらアレルギーを示す若い人たちとの接点を模索することが問われており、私たちは宿題をいただいたので、今後とも模索していく必要があるだろう。